



さとう まり恵  
**テレビ局勤務(報道ディレクター)** **佐藤 真里恵**さん  
 2015年度メディア情報学部卒業

### Profile

福島県立郡山東高校出身  
 2012年 駿河台大学 メディア情報学部 入学  
 2016年 番組制作会社 入社  
 テレビ局勤務(AD)  
 2020年 テレビ局勤務(ディレクター)

### ▶現在の仕事

私は現在、テレビ局で夕方の報道番組を担当し、毎日様々なニュースを届ける仕事をしています。大学卒業後、現在の番組制作会社に入社し、TBSテレビで報道特番やニュース番組のADとして4年間働いてきました。そして今年の4月からディレクターとなり、自らカメラを持ち色々な現場に足を運んで取材する日々を過ごしています。ディレクターの仕事は、カメラで撮影することだけではなく、目の前で起きている状況をレポートしたり、グルメの取材ではお店の方やお客さんにインタビューをしたり、食リポをしたりすることもあります。また、編集マンと共に撮影した映像を編集したり、アナウンサーやナレーターが読む原稿を書いたり、多くの人と関わりながら番組を制作していきます。日々の生活の中で、面白いことはないか、流行は何か、常にアンテナを張って生活することがテレビの仕事をしていく上で大切だと思います。



AD時代、ナレーション録りの様子

### ▶仕事の魅力や困難なこと

私が感じる一番の魅力は、たくさんの人と関わることができ、その方たちが伝えたい情報や思いをテレビを通じて自ら発信できることです。この仕事をしていなければ、行けない場所や会えない人たちに、接することができるのも魅力の一つであり、関わった人たちに「おかげでたくさんお客さんが来てくれたよ」とありがたい言葉をいただけた時は、とてもやりがいを感じます。また、自分が出した企画が通り、その企画を放送に至るまで一から作り上げていく面白さもあります。正解がないので難しさもありますが、どうやったら面白くなるかを、自由に考えることができるので楽しいです。一方で、テレビの仕事は大変というイメージを持たれる方も多と思います。報道番組に携わる上ではやはり、大きな災害や暗いニュースも扱わなければならないので、そういったニュースは特に真摯に向き合わなければなりません。暑い日も寒い日も現場に行き、正しい情報を発信し続けなければいけないので、体力的に大変な部分もあります。



今年の8月、千葉で開催されたオンライン修学旅行企画取材

### ▶駿河台大学在籍中のこと

大学在学中は、サークル活動やバイト、ゼミで映像制作の活動など様々なことに取り組んできました。社会人になった今思うことは、学生時代に取り組んだことは何一つ無駄にはならないということです。テレビの仕事は、自分の得意な分野や知らないこと、初めて聞く言葉などたくさんのお客さんに届けなければなりません。そんな時に、少しでも知識があれば役に立つので、吸収できるうちに学んでおくことは大切だと思います。

また、私がテレビの仕事をする覚悟ができた経験があります。それは3年次に体験した、山梨のテレビ局へのインターンシップです。実際の現場で働く記者の方々リアルな話を聞くことができ、何より今まで憧れていた現場での仕事の体験が楽しくて、やはりテレビの仕事がしたいと自分の気持ちを再確認できたので、貴重な経験だったと感じています。



山梨のテレビ局YBSでのインターンシップ、カメラマンの体験



ゼミでの活動、ミュージックビデオ撮影時の様子

### ▶これからのこと、後輩へのメッセージ

私の今の目標は、入社当時の夢でもあった東京オリンピック関連の取材をすることです。新型コロナウイルスの影響で来年に延期となりましたが、果たして本当に開催できるのかは現状まだ分かりません。無事に開催することができたら、日本の魅力と関わる人たちの温かさを再発見しながら、たくさんの人たちと盛り上げていきたいと考えています。

コロナ禍におかれている学生の皆さんに伝えたいことは、こんなはずじゃなかったと落ち込まず、何か新しい事にチャレンジしたり、今取り組んでいる事にとことん励んでほしいということです。もっと色々なことに積極的にチャレンジしておけばよかったと今でも思います。4年間という時間は長いようであつという間です。どうか後悔しない学生生活を送ってください。